

# Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年10月29日発行 No.85

『イエスは、「何をしてほしいのか」と言われた。盲人は、「先生、目が見えるようになりたいので」と言った。そこで、イエスは言われた。「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

盲人は、すぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った。』 (マルコ 10: 52)

<目に見えない確かなつながりを覚えつつ…。学院関係者逝去記念礼拝が行われました!!>

キリスト教の暦では、見えない霊の存在を覚える「万聖節」を迎えています。神戸国際大学が属する八代学院でも、先週関係者の霊に心を向ける「学院関係者逝去記念式」が、垂水の学が丘にある学院記念チャペルで挙行されました。ここでは、今年度に亡くなられた方々に加えて、50余年にわたる学院の歩みを支えて下さった逝去者一人ひとりの名前が読み上げられ、その働きへの感謝と魂の平安が祈られました。また、メッセージを担当された八代学院長からは、亡くなられた方々の願いや意思を、遺された私たちが丁寧に、そして真摯に引き継いでいく事の大切さが語られました。

巷では、ハロウィーンが商業イベントとして取り上げられ、その経済効果がいくらだとか、また仮装した若者が渋谷で暴れて逮捕…というような残念なニュースが報じられていますが、元々このハロウィーンも、死者の魂に想いを向けるという点では逝去者記念と同じルーツを持っています。収穫の秋を迎え、世界中の命が美しく輝くこの時期だからこそ、今一度一人ひとりに与えられた命の大切さと、その命を支える見えない霊の存在に心を留めたいですね。



会場は学が丘の記念チャペル



関係者 105 名を読み上げる埜田先生



不滅の繋がりを説く八代学院長

<長年にわたる尊いご奉仕に感謝を込めて…。名誉教授・名誉顧問 称号記授与式を挙行!!>

先週の木曜日、チャペルでは長年にわたり大学・学院を支えて来られた方々に名誉教授・名誉顧問の称号記をお渡しする授与式が執り行われました。この春まで大学を支えて来られた米浪先生とオダネル先生には下村学長から、また学院幹事の上野様には前田理事長から、顕著な貢献に対する感謝と共に称号記が手渡されると、3名の方々は喜びの表情でこの度の表彰を受けられておられました。特に印



象的だったのが、大変な状況でもそれを喜び、楽しみながら学院、また学生に仕えて来られた、その姿勢です。建学の精神でも

もある「仕える」に「楽しみながら」を加えていきたいですね!! 尊いご奉仕に感謝いたします!!

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

10月22日(月) テーマ:「すべてのものには時がある」 野間 光顕(チャプレン)

今年創立50周年を迎えたKIU、記念行事の一つとして学院創立者「八代斌助資料集」が発刊された。この資料集を見ながら気付かされたのが、約半世紀前に八代師父の口から語られた教育に関する様々な課題が、今の社会に於いてなお課題となり続けているという事だ。八代師父が目指し、求め続けられた理想の教育観は、一種の普遍性を持っており、時代や流行等が変化してもそれらに流される事がない。特に八代師父は、いつの世も時代の流れに翻弄されてきた若き魂が、本当の意味で成長でき、純粹で活きたエネルギーを社会や世界に発せられるような教育の実現を求め続けられた。この時、今一度その真理を覚えつつ共に歩みを進めたい。

10月23日(火) ※この日は後期最初の音楽礼拝!! オルガニストの伊藤純子先生の素敵な演奏に耳と心を傾けました。次回は、10月30日(火)です!!



10月24日(水) テーマ:「ノーベル賞本庶先生の6つのC」 友枝 美樹(リハビリテーション学部)

先日、京都大学の本庶佑先生が「人体を守る免疫の仕組みを利用し新たながん治療の道を拓いた」としてノーベル生理学・医学賞を受賞された。本庶先生は1992年にある分子を発見した事から研究を始め、22年間かけて新しい道を拓かれた。しかし新薬で得られた利益を自分ではなく、基礎研究に取り組む若手研究者に捧げておられる。本庶先生の座右の銘は「有志竟成」(志を堅持すれば必ず成し遂げられる)で、大切な6つのCとはCuriosity(好奇心)を忘れず、Courage(勇気)を持って困難にChallenge(挑戦)する、達成へのConfidence(確信)を持ち、全精力をConcentrate(集中)し、諦めずにContinuation(継続)する。私はここから自分の研究者時代を思い出し、一つの事に没頭しやり遂げる事の大切さを再確認した。これに加えて心の柔軟性と優しさ、隣人と喜びを分かち合いながら歩んでいきたい。

10月25日(木) テーマ:「そなえよ つねに」 藤倉 哲哉(経済学部)

今年度に入ってから大阪北部地震や西日本豪雨、超大型で猛烈な台風等々大変な災害が連続して列島を襲った。KIUは、不測の事態に備えて800名分の非常食と飲料水を、またその他にも簡易トイレや小型発電機など様々な備品を用意している。私は大学で防災対策を担当しており、普段から他大学や地域の方々との防災活動の協力をしている。救急講習や応急手当の講習を受講し、資格を取って指導等を行う。靴の中には非常時への備えもあるが、その原点にあるのは、日頃から心で備え、頭を使って予防する事だ。災害は平等に人を襲うが、被害は平等ではない。知識や道具を組み合わせ得られる「知恵」を生かし「そなえ」を「つねに」したい。

10月26日(金) テーマ:「その答えは意外な場所に…」 中西 亮介(リハビリテーション学部)

近年、リハビリの分野では筋萎縮が問題視されている。これは寝たきりや入院時の長期安静で生じ、何もしなければ10日間で約20%、1ヶ月で60%の割合で筋萎縮が発生、これが原因で死を招く場合もある。高齢者は一度萎縮すると元の状態に戻れない事もあり、我々理学療法士は少しでも萎縮を防ぐように様々な手を試みるが、残念ながら現在これと言った治療法が見つかっていない。しかし、北海道医療大学の宮崎教授は冬眠しているクマに着目した。クマは冬の間約120日間冬眠するがその間、一切活動をしないにも関わらず筋萎縮の割合が少な

い事が分かり、現在このメカニズムの解析が進んでいる。私たちの抱える課題は、実は身の周りの意外な所に答えが隠されている場合がある。聖書は「狭い門から入れ」という真理を説くが、研究に向き合う私たちも、この言葉を心に覚えながら歩みたい。 （文責：野間 光顕）